1A-4-2

福島県作業療法士会いわき支部の支援活動報告

藁谷　裕葵
いわき市立総合磐城共立病院

【はじめに】

（一社）福島県作業療法士会いわき支部では，震災直後より被災者への支援活動を開始し，現在も継続している．活動経過と課題，これまでの過程で作業療法士（以下，OT）にできる事，すべき事についての考察を併せて報告する．

【支援活動内容】

5月より，避難所訪問と相談支援専門職チーム（福島県からの委託事業）の活動を実施した．

1）活動開始までの準備

・役所等より避難所の情報を収集
・ボランティア保険の加入
・関係者（役所・保健師）へ活動計画を提示
・茨城県士会との連携
・避難所・仮設住宅へのポスター作成
・支部内の支援活動マニュアル作成
・支援活動説明会の実施

2）支援活動1：避難所・仮設住宅サロン訪問

平成23年6月7月の土・日曜日，24年2月3月の第3水曜日に2時間程度，全14回実施．協力は，いわき支部延べ36名，茨城県士会延べ25名．活動として，飲み物の提供，傾聴，集団体操，工作活動，住環境調査，保健師・市職員への情報提供を行った．

3）支援活動2：相談支援専門職チームの活動

平成23年5月から関係6団体と合同で開始し，介護予防（集団体操，頭の体操，工作活動）を中心に活動を行っている．月2回程度，いわき市に避難している2自治体の仮設住宅へ訪問し，24年5月まで26回実施し，現在も継続している．

【活動経過：OTとしての関わり】

福島県では震災・津波・原発事故の被害により，複数の自治体がいわき市に避難している．いわき市も被災地であり，少ない情報の中，少ない人数で開始した．茨城県士会やチーム活動を通して他団体と交流・意見交換をし，OTとしてできる活動をメンバーで議論し，試行錯誤しながら進めた．

健康・風評被害への不安，感情的な訴えが強く，傾聴と工作活動を中心に行った．傾聴する事と共に過ごす時間と活動を提供する事により，OT・対象者・関係職員間で互いになごみ楽しむ体験ができ，OTを知ってもらうきっかけとなった．

また体操や折り紙，雑巾縫いなど，子供から高齢者まで年齢層や活動度に合わせた活動を提供した．活動を通じて対象者の笑顔がみられ，継続して訪問したことにより，対象者や職員より体操の方法や作品の作り方の質問など声をかけられる頻度が多くなった．また，季節感のある工作活動では対象者から前向きな声が聞かれ，チーム対抗のレクリエーションでは「久々に大きな声で笑った」との声が聞かれた．

これらの活動を継続する中で支援活動の形が定着し，交代で行っても同様の質の活動提供が可能となった．対象者や関係職員から「楽しみ」との声が多く聞かれ，受け入れられたことを感じることができ，やりがいにつながった．微力ながらも限られた条件の中で支援活動が継続できたのではないかと思う．

一方で，役所・保健師へOTの視点からの情報提供（対象者の身体・精神面，住環境等）と情報交換を行った．その後OTへの理解が得られ，役所の依頼により，サロン活動の協力へとつながった．また他団体や関係職員よりOT派遣の要請を受け，集団体操，工作活動等の活動の提供と提案を現在も継続している．

【考察：課題と今後の展開】

今回，活動開始にあたり，まずはOTを理解してもらう事，被災者のニーズの模索と作業療法提供のきっかけ作りの作業を要した．OTのできることを広く知ってもらい，震災等の非常事態に必要な支援が早期より提供できる環境作りを日頃からしておくことが重要であると感じた．今後のいわき支部活動として強化していきたい．

いわき市への避難者は2万人を超え，現在もさらに避難者が増加している．継続的な健康維持活動や余暇活動の提供が必要と考える．これまで活動提供を中心に行ってきたが，今後は職員や支援者に向けて作業療法に関する活動の提案や情報提供を中心とし，各自治体や各仮設住宅の職員やボランティアが中心となって被災者の心身の健康向上・維持のための活動ができる環境作りを目指して展開していきたい．